

「自治体におけるChatGPT等の生成AI活用ガイド」 概要編

令和5年10月
埼玉県戸田市

「自治体におけるChatGPT等の生成AI活用ガイド」の概要

ガイドブックの構成

(1) 本ガイドブックの構成

「自治体におけるChatGPT等の生成AI活用ガイド」は本編と事例・資料編の2部構成
 本編は自治体がChatGPT等の生成AIを活用する際に必要となる情報をまとめたもの
 事例・資料編は調査研究会で使用した資料やハッカソンの成果発表資料をまとめたもの

ガイド	構成	内容
自治体業務における ChatGPT等の 生成AI活用ガイド (本編)	1.基礎編	ChatGPT等の生成AIの基礎知識 や基本的な使い方を解説します。
	2.ルール編	ChatGPT等の生成AIを業務で使 用する場合のルールや留意点につ いて解説します。
	3.活用編	ChatGPT等の生成AIの具体的な 活用方法について調査研究チーム の事例を紹介します。
自治体業務における ChatGPT等の 生成AI活用ガイド (事例・資料編)	1.事例編	その他のChatGPT等の生成AIの 事例や試行した製品などを掲載し ています。
	2.資料編	ChatGPTの調査研究で使用した 資料やハッカソンの成果発表資料 を掲載しています。



「自治体におけるChatGPT等の生成AI活用ガイド」の概要

(2) 対象となる読者

自治体においてChatGPTをはじめとした生成AIの活用に取り組みたいと考えている自治体の職員の方々が主な対象

(3) ガイドブックの二次利用について

「自治体業務におけるChatGPT等の生成AI活用ガイド（本編）」に含まれる著作物性のある文章や図表等の著作権は、第三者の出典が表示されているものを除き、「クリエイティブ・コモンズ・ライセンス 表示4.0 国際」を採用



「自治体業務におけるChatGPT等の生成AI活用ガイド（本編）」by 戸田市 is licensed under a Creative Commons 表示 4.0 国際 License.
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja/>

なお、「自治体業務におけるChatGPT等の生成AI活用ガイド（事例・資料編）」は著作物性のある文章や図表等が含まれているほか、企業ロゴなどが使用されているため、転載する場合は、戸田市デジタル戦略室までお問い合わせください。

「自治体におけるChatGPT等の生成AI活用ガイド」の概要

「自治体におけるChatGPT等の生成AI活用ガイド(本編)」 目次

令和5年度戸田市 ChatGPT に関する調査研究事業
自治体における ChatGPT 等の
生成 AI 活用ガイド(本編)

令和5年10月
埼玉県戸田市

目次

1. 基礎編	4
1.1 生成 AI とは	5
1.2 ChatGPT について	6
1.3 自治体業務における生成 AI の有効性	8
1.4 生成 AI の6つのリスク	9
1.5 ChatGPT の基本的な使い方 (例)	10
1.5.1 ChatGPT3.5 (無償版)	10
1.5.2 MicrosoftBing AI チャット (ChatGPT4)	19
1.5.3 API による利用	22
1.5.4 機能比較表 (参考)	23
2. ルール編	24
2.1 生成 AI を使用する場合の留意事項	25
2.2 情報セキュリティポリシーとの関係	26
2.3 具体的な禁止事項	27
2.4 教育における生成 AI の取り組み	29
2.4.1 戸田市の教育における生成 AI 利用に係る基本的な方針	29
2.4.2 戸田市の教育における生成 AI の利用に関するガイドライン	29
3. 活用編	30
3.1 市役所情報バズっチャエプロジェクト (プレスリリースのテンプレート)	31
3.2 とだ瞬プロジェクト (メールのテンプレート)	40
3.3 時短窓快プロジェクト (施策の原案作成)	44
3.4 キャッチコピーの作成 (ChatGPT とブレインストーミング)	45
3.5 議事録の要約	51
3.6 戸田市公式ホームページから、ChatGPT でうまく情報を抜き出す検証	53
3.7 Excel マクロ等のエラー修正	56
3.8 イメージキャラクターの作成	61
3.9 翻訳文の作成	62
3.10 校務利用でのプロンプト例	65

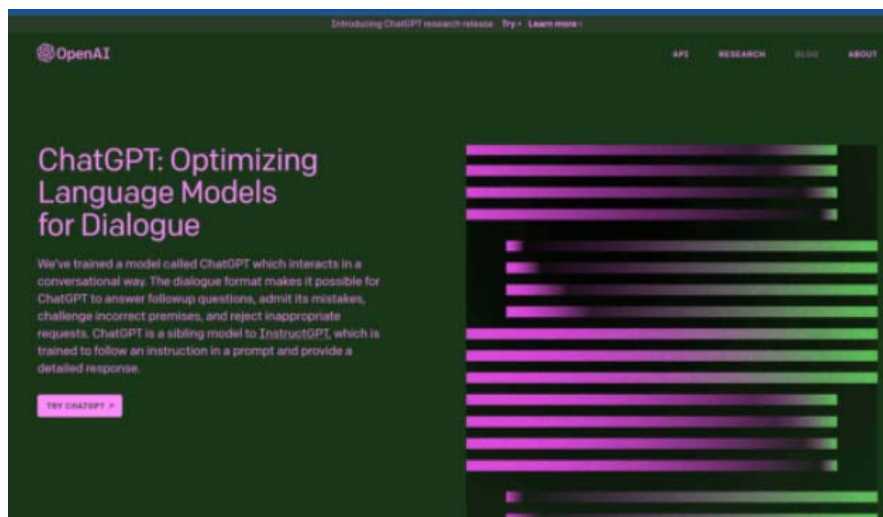
「自治体におけるChatGPT等の生成AI活用ガイド」(基礎編)

生成AI (Generative AI) とは

生成AIは、人工知能 (AI) の一種であり、主にデータや情報を生成する能力が注目されています。生成AIは、新しいデータやものを作り出すAIで、文章を作ったり、画像を描いたり、音声をつくったりします。そのため、文章や画像、音声の分野で多くの用途があります。本資料ではChatGPTを含む生成型AIの総称を生成AIとしています。

ChatGPT (Generative Pre-trained Transformer) とは

ChatGPTは、OpenAIが開発した大規模な言語モデルの生成AIで、人と対話しながら自然な文章を生み出せる能力があり、質問に答えたり文章を作るなど、いろいろなことに使われます。このChatGPTは、たくさんの文章データを学び、言語の形や文章の流れを理解できるようになりますので、ユーザーが入力する言葉に適切な返事を作ることができます。会話の途中で前のことを考えて応答できるのが特長です。



<https://chat.openai.com/>

自治体業務における生成AIの有効性

(1) 文書作成と編集の効率化

自治体業務では、報告書や提案書、メモの作成が必要です。生成AIはテキストを生成する能力があり、文書の草案やフォーマットの提案、文章の編集や校正のサポートに役立ちます。

(2) 情報検索と要約

生成AIには多くの情報から適切な情報を検索して要約する能力があります。行政の法令や会議議事録などの情報を要約し、必要な情報を迅速にまとめるのに役立ちます。

(3) 会議の準備と資料作成

自治体の会議資料の準備は重要です。生成AIは会議の議題やアジェンダ、必要な資料の概要作成を支援します。

(4) FAQへの対応とトレーニング

生成AIを使用して、自治体職員間や新入職員向けのFAQ質問応答を行うことができます。よくある質問に適切な回答をモデルに学習させ、効率的なトレーニングを行えます。

(5) アイデアの提案とブレインストーミング

自治体内では政策の提案や問題解決のアイデアが求められます。生成AIは異なる視点やアイデアを提供し、ブレインストーミングをサポートします。

文書や資料作成を行う際は、まずは生成AIを活用できないか、考えてみましょう。

プロンプトの工夫

命令（プロンプト）を工夫することで、より効果的で具体的な回答を引き出すことができます。

【具体的に質問する】

プロンプトにはできるだけ具体的なイメージを与えると、より意図した回答が得られるようになります。

- ・「この文章を小学生でもわかるようにやさしい日本語で要約してください」
- ・「こどものいる世帯をターゲットにしたタイトルを3つ考えてください」
- ・「実際の事例をあげて教えてください」

【制限や条件を与える】

プロンプトで制限や条件を与えることで、より適切な答えが得られます。

- ・行政が使用する文章表現にする
- ・具体例を挙げる
- ・200文字以内に収める

【追加で質問する】

前の文脈を考慮して答えてくれますので、詳細を知りたい場合は、追加の質問をしてみてください。

- ・「他の方法も教えて」
- ・「具体例を教えて」
- ・「なぜそうなるの？」
- ・「何を参考にした？」

【ルールを指定する】

ルールを指定すると、ルールに従った文章を生成してくれます。

- ・同じ語尾を3回くりかえさないこと
- ・難しい専門用語を使わないこと
- ・わかりやすく説明すること
- ・「ですます調」で書くこと

テンプレートの例

命令（プロンプト）にテンプレートを使うことで、定型的な回答を得ることができます。

【テンプレートの例】

#命令書
あなたは企業の広報担当者です。下記の#制約条件 に忠実に従い、最高のプレスリリース作成して下さい。
#制約条件
*企画に基づいて{200文字}の文章を作成する。
*魅力的な見出し
*重要な情報を先に伝える
*サービスの利点を強調
#企画
*概要：{ChatGPTを活用したハッカソンの開催について}
*社名：{戸田市}
*所在地：{玉県戸田市上戸田1丁目18番1号}
*期間：{令和5年7月1日}
#連絡先
{戸田市企画財政部デジタル戦略室 048-229-3278}
#出力形式
*見出し
*本文 文章は「[社名は]」から始める。
*連絡先



【生成された文書】

戸田市がChatGPTを活用したハッカソンを開催！デジタル革新の一步へ

本文:

戸田市は、令和5年7月1日に、革新的な取り組みとしてChatGPTを活用したハッカソンを開催いたします。このイベントは、地域のデジタル革新を促進し、市民と協力して未来志向のソリューションを創出することを目的としています。

ハッカソンでは、参加者がChatGPTと連携して、社会の課題解決に取り組みます。市が提供するデータや情報を活用し、創造力と技術力を結集して新たなアイデアを生み出すことが期待されています。

このハッカソンは、地域の活性化と持続可能な発展のために重要な一步となるでしょう。戸田市は、市民のアイデアと協力を通じて、より良い未来を築くためのイノベーションを推進しています。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

戸田市企画財政部デジタル戦略室への連絡先：[048-229-3278]

生成AIを使用する場合の留意点

(1) ファクトチェックの重要性

生成AIが出力した情報を鵜呑みにせず、検証してから使用するようにしましょう。

情報の信頼性については注意が必要です。生成AIは大量のデータを元に学習したモデルですが、時折誤った情報を生成することがあります。特に最新情報や専門的な知識に関しては、正確性を保証するのが難しいことがあります。

(2) 適切な文脈の確認

生成された文章は、正しい文脈となっているか確認しましょう。

適切な文脈を考慮する能力に限界があります。生成AIは前の文脈を考慮して応答を生成することができますが、時には適切な文脈が欠落していることがあります。そのため、不自然な応答や意図しない結果が生じることがあります。

(3) 倫理的な利用に留意

他人を傷つけたり悪用したりせず、不正確な情報を広めないように心がけましょう。

倫理的な配慮も必要です。生成AIは多種多様なデータから学習していますが、中には差別的な表現や攻撃的な言葉を生成する可能性があります。

(4) バイアスや不適切なコンテンツへの警戒

不適切な内容や差別的な表現が含まれている場合は、適切に対処しましょう。

生成AIは多くのデータを使って学習するため、情報に偏りが生じる可能性があります。特定のトピックや文化についての情報が足りないか、バイアスがかかっている場合があります。

(5) プライバシーとセキュリティに配慮

プライバシー情報や機密性の高い情報を入力しないように注意しましょう。

プライバシーにも気を配る必要があります。生成AIを利用する際には、ユーザーのデータがサーバーに送信されるため、プライバシーの懸念が生じる可能性があります。

(6) 著作物の確認

使用にあたってはそのまま採用するのではなく他の著作物の権利を侵害していないか必ず確認するようにしましょう。

生成されたものについては、類似性等により著作権に抵触する場合があります。意図せず他の著作物を使用しないよう注意が必要です。

具体的な禁止事項

情報セキュリティポリシーとの関係

個人情報・機密情報の取り扱いができません。

ChatGPTのような生成AIサービスは、一般的に「約款型外部サービス」と呼ばれ、不特定多数の利用者に向けて、一般的な規約に同意するだけで利用できる外部サービスです。このタイプのサービスでは、通常、セキュリティ対策やデータの取り扱いに関して特別な要求をすることが難しいことが多く、基本的には高度なセキュリティが必要な情報を取り扱うことはできません。

(1) 個人情報を使った質問

入力した個人情報が学習に使われ、回答に含まれるリスクを避けるため、ChatGPT等の生成AIでは個人情報を扱わず、個人情報に関連する質問は避けてください。

(2) 個人情報の収集

個人情報の収集は通常、本人から行うべきであり、ChatGPTが生成する情報は必ずしも正確ではないため、生成された個人情報を使用することは適切ではありません。

(3) 機密情報を使った質問

生成AIの利用にあたっては機密情報を扱うことは禁止されていますので、機密情報に関連する質問は避けてください。ただし、直接的に機密情報に関係しない質問をChatGPTに入力することは問題ありません。

(4) 生成AIの回答をそのまま使う

生成AIが生成した情報はもっともらしく不正確な情報を生成することがあるため、生成された情報をそのまま使用することは適切ではありません。生成された情報を使う際には、必ず情報の正確性を確認し、職員自身が情報を作成したものとして責任を持って使用してください。

「自治体におけるChatGPT等の生成AI活用ガイド」(活用編)

活用事例1: 市役所情報バズっちゃえプロジェクト(プレスリリースのテンプレート)

市の広報担当職員が作成したプレス資料を元に、ChatGPTにさまざまな指示を与えて、相手の心に響く文章やテンプレートを作成しました。

現行 (プレスリリース)

女子プロサッカー長谷川唯選手が市役所を訪問～とだPR大使記念品授与式と応援イベントを開催～

戸田市出身のプロサッカー選手であり、現在、イングランドのマンチェスターシティで活躍する、とだPR大使の「長谷川唯」選手の帰国に伴い、市役所でとだPR大使の記念品授与式を開催します。

当日は、長谷川選手を市役所で市民とともに歓迎し、とだPR大使としての想いや今後の選手としての意気込みを語っていただきます。

イベント終了後には、囲み取材の時間を設けますので、ぜひ取材にお越しください。

なお、取材を希望する場合は事前に戸田市役所市長公室まで申込みをお願いします。

日時 2023年6月14日(水曜) 午前10時から

(注釈) 取材を希望する場合は6月9日(金曜)までにお申込みください。

(注釈) 多くの記者様にお越しいただけの際は、幹事社による代表質問とさせていただきます。

場所 市役所2階ロビー

(注釈) 囲み取材は4階公室に移動の上で行う予定です。

問い合わせ 市長公室 広報・広聴担当 電話: 048-441-1800 (内線423)

チャットGPT (市民向け) プロンプト

[文章作成]
あなたの役割はライターです
以下の #条件 を満たして #内容 に関する返答だけをしてください。

#条件
市役所からの市民へのお知らせ
言語は日本語で、
文字数は400文字以内で
敬語を使わない、
キャッチーな説明文を入れる

#内容
女子プロサッカー長谷川唯選手が市役所を訪問
ワールドカップの代表選手内定を受けて初めての公式の場である
日時 2023年7月14日午前10時から
場所 市役所2階ロビー

チャットGPT (プレスリリース) プロンプト

[文章作成]
あなたの役割はライターです
以下の #条件 を満たして #内容 に関する返答だけをしてください。

#条件
市役所からのプレスリリース
言語は日本語で、
文字数は400文字以内で
敬語を使わない、
キャッチーな説明文を入れる

#内容
プレスリリース資料作成
女子プロサッカー長谷川唯選手が市役所を訪問
ワールドカップの代表選手内定を受けて初めての公式の場である
日時 2023年7月14日午前10時から
取材を希望する場合は6月9日(金曜)までにお申込みください。
多くの記者様にお越しいただけの際は、幹事社による代表質問とさせていただきます。

場所 市役所2階ロビー
囲み取材は4階公室に移動の上で行う予定です。

チャットGPT (市民向け) 生成結果

【速報】長谷川唯選手が市役所にやってくる！見逃すな、この一瞬を！

ワールドカップ代表選手の内定を受け、注目度急上昇中の女子プロサッカー界のアイコン、長谷川唯選手がついに市役所を訪れます！彼女にとって初めての公式イベントであり、その瞬間を市民の皆さんと共有できる光栄な機会です。

日時は2023年7月14日(木曜日)午前10時から。場所は市役所2階ロビーです。彼女の熱いエネルギーが満ち溢れる場に、ぜひ足を運んでください！この特別な日に立ち会うために、あなたもぜひ参加しませんか？彼女のバワフルなプレーと情熱に触れ、応援の輪を広げましょう！

詳細な情報やお問い合わせ先については、市役所の公式発表をご確認ください。この機会に、市役所と共に長谷川選手を熱烈に歓迎しましょう！

※このお知らせは市役所からの発信であり、詳細については市役所の公式情報をご参照ください。

チャットGPT (プレスリリース) 生成結果

【速報】長谷川唯選手、市役所を訪問！ワールドカップ内定者の初の公式イベントが開催されます！

ついに迎えた瞬間です！女子プロサッカー界のスーパースター、長谷川唯選手が市役所にやってきます。彼女がワールドカップの代表選手内定を受けて初めての公式の場に立ち会う瞬間です。

日時は2023年7月14日(木曜)午前10時から。市役所2階ロビーが彼女の輝かしい訪問の舞台となります。

皆様へのお願いです。この素晴らしい瞬間を逃さず取材しませんか？もし取材を希望される場合は、6月9日(金曜)までにお申込みください。多くの記者の皆様のご来場をお待ちしております。

なお、取材が集中した場合、幹事社による代表質問の時間を設ける場合がございます。ご了承ください。

また、イベント後の囲み取材は4階公室に移動して行われる予定ですので、ご了承ください。

この喜びに包まれた日を、戸田市役所広報課が全力でサポートいたします。ご不明な点がありましたら、お問い合わせ先までご連絡ください。

感想

- 試行錯誤を繰り返していく中で、ChatGPTによる回答の精度が高まっていき、最終的には人間が生成するものと同様かそれ以上の成果物が作成された。
- 精度の高い回答を引き出すための鍵は「プロンプト」。どのような指示、条件を与えるかによって、生成結果は劇的に異なる。このため、目的意識やユーザー目線を持って適切なプロンプトエンジニアリングをすることが重要である。
- プレスリリースに限らず、ChatGPTは市役所の様々な業務への活用可能性が考えられる。今回のハッカソンでの試行錯誤も踏まえ、日々の業務の中で「壁打ち」を繰り返しながら、生産性を向上させていきたい。

活用事例2:とだ瞬プロジェクト(メールのテンプレート)

日々、仕事でたくさんのメールを送っていますが、メールの書き方がバラバラで、その上、どんな内容のメールを書くかを考えるのも、業務が複雑になる一因です。ChatGPTを使って、使い勝手のいいテンプレートを作成し、メール本文を効率的に書けるようにし、業務をスムーズに進めたいと考えています。

とだ 瞬 プロジェクト ~とだ 瞬 メール「神」~

プロジェクトの概要

日々業務で多くのメールを送信しているが、メールの形式が統一されておらず、また、内容に合わせたメール文を考えることも、業務が煩雑になる要因の一つとなっている。ChatGPTを活用し、汎用性のあるテンプレを作成することで、メール本文を短時間で作成できるようにし、業務の効率化を図るものである。

テンプレとプロンプト

- ①外部へのメール
 - ②内部へのメール
- 差出人、宛先、日時、市職員が送信するもの、内容の概要、字数等をテンプレに落とすことで、適切な文章・文体とともにメール文章が作成される。

工夫したこと

役割を設定。条件の制約を整理して明確に伝える。例えば、研修であれば「参加しやすいように」という指示を入れると、より参加したくなるような文章になるなど意図をくんだものが作成される。条件を変えると様々な形が提供される。

ダメだったこと

テンプレの指定が複雑になると、ChatGPTがこちらの意図と異なる回答が返ってくるので注意が必要。連続で実施すると前の内容を引きずっていることがあった。要約後、手打ちしなければいけない部分が多い。

感想

非常に簡単に内容も適切なメール文章が作成され、効果的・効率的に作業ができる。全庁で展開できるものと思われる。

活用事例3:時短窓快プロジェクト(施策の原案作成)

市役所での手続きは、市民と職員が互いに理解し合うのに時間がかかり、多くの労力が必要な場合があります。例えば、「どこで手続きすればいいかわからない」「用事がうまく伝わらない」「手続きにかかる時間が予測できない」といった課題があります。これらの問題を解決するために、ChatGPTを活用して提案してもらいました。市民と窓口職員をスムーズに結びつけ、双方の対応時間を短縮させて、窓口での対応を快適にすることを実現します。

<p>戸田市調査研究チームA</p> <h3>時短窓快プロジェクト</h3> <p>スムーズな手続きを目指して ~</p>	<h3>時短窓快プロジェクトの概要</h3> <ul style="list-style-type: none">▶ 市役所窓口での手続きは、市民と対応する職員の双方が用件を共通理解するまでに時間がかかり、対応に多くの労力が必要とする。▶ 「手続きする窓口がわからない」「用件が伝わらない」「手続きにかかる時間がわからない」といった窓口における課題について、ChatGPTを用いた解決策を提案する。▶ 手続きに訪れた市民と手続きを行う窓口職員をつなぎ、市役所に訪れた市民と手続きに対応する職員双方の対応する時間を短縮することで、快適な窓口対応を実現する。	<h3>ChatGPTの活用①</h3> <p>ChatGPTで「時短窓快」につながる解決策を検討した。</p> <p>【プロンプト】</p> <ul style="list-style-type: none">▶ 市役所の窓口時短の方法を5つ提案してください。▶ 市役所窓口サービスの充実と職員負担の軽減は。▶ 市民と職員双方にとっての窓口業務の快適化とは。
<h3>ChatGPTの活用②</h3> <p>ChatGPTで「時短窓快」につながる解決策を検討した。</p> <p>【回答結果】</p> <ul style="list-style-type: none">▶ デジタル化とオンラインサービスの拡充▶ ロボットプロセスオートメーションの活用▶ 職員のスキル向上▶ 市民向け情報の発信と周知▶ セルフサービス端末の設置▶ 窓口受付オンライン予約システムの導入	<h3>ChatGPTの活用③</h3> <p>ChatGPTで「時短窓快」につながる解決策を検討した。</p> <p>【窓口受付オンライン予約システムのメリット・デメリット】</p> <ul style="list-style-type: none">▶ メリット<ul style="list-style-type: none">・待ち時間の削減・予約時間の確保・人的リソースの最適化▶ デメリット<ul style="list-style-type: none">・予約の制約・非予約利用者への不公平感	<h3>まとめ</h3> <p>検討作業における感想など</p> <ul style="list-style-type: none">▶ 解決すべき課題の解決策を導き出すために適したプロンプトの作成は難しいと感じている。入力者にとって簡単に作業できなければならないと感じた。▶ 課題に対する問題点の洗い出しや気付き等への活用が期待できる。▶ 同じプロンプトを入力しても回答が異なる点について課題を感じる。

「自治体におけるChatGPT等の生成AI活用ガイド(事例・資料編)」 目次

令和5年度戸田市 ChatGPT に関する調査研究事業
自治体における ChatGPT 等の
生成 AI 活用ガイド(事例・資料編)

令和5年10月
埼玉県戸田市

こちらの資料の転載をご希望の場合は戸田市デジタル戦略室までお問い合わせください。

目次

1.事例編.....	2
1.1 職員採用論文を ChatGPT に書かせた場合.....	3
1.2 調達仕様書自動作成サービス「プロキユアテック」.....	7
1.3 Google スプレッドシートの GPT 関数を使った利用法.....	8
1.4 LINE MessagingAPI と GoogleSpreadsheet による LINE Bot を作成.....	9
1.5 ChatGPT for LGWAN 自治体 AI zevo<ゼヴォ>の試用.....	10
2.資料編.....	11
2.1. ChatGTP に関する調査研究事業の概要.....	12
2.1.1. 事業概要.....	13
2.1.2 手法.....	15
2.1.3. 調査研究会の内容.....	17
第1回研究会.....	18
第2回研究会.....	18
第3回研究会.....	22
第4回研究会.....	30
第5回研究会.....	30
2.2ChatGTP に関する調査研究資料.....	31
別冊 戸田市の教育における生成 AI の利用に関するガイドライン	
【参考資料1】夏季休業中の課題に対する利用について	
【参考資料2】生成 AI ガイドラインについて (保護者宛)	
【参考資料3・4】校務・学習利用アイデア	

1. 調査研究概要

1.1. 事業概要

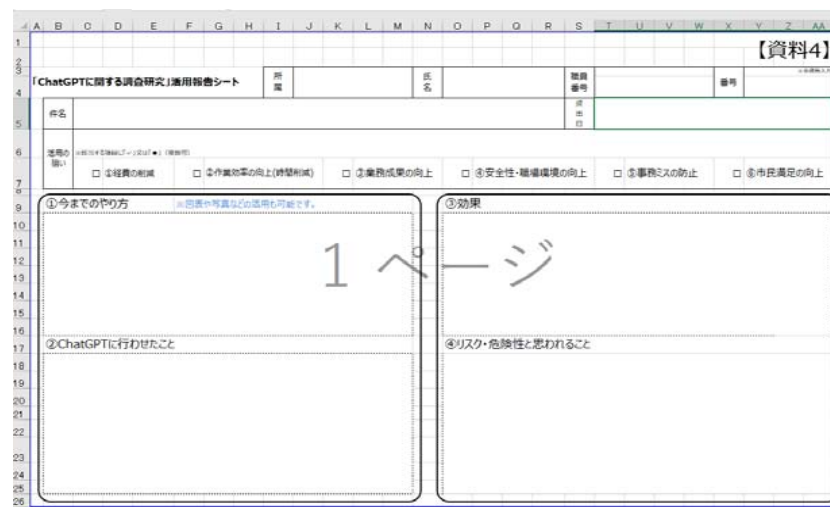
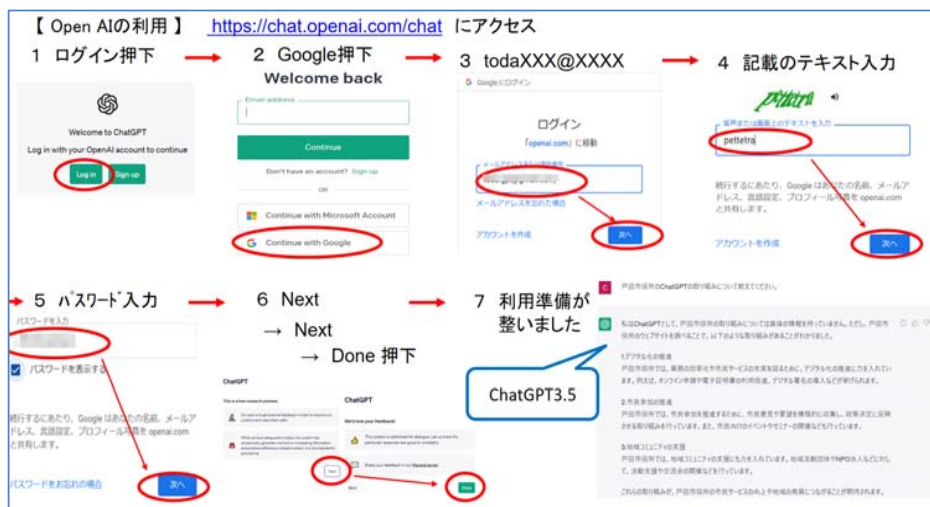
自然言語型の生成AIであるChatGPTを活用し、自治体の業務において自動化・効率化が可能な領域を洗い出し、その改善策を提案するとともに、リスク・危険性を把握し、安全に利用する方法を検証する

1.2 手法

ChatGPT検証用アカウントをメンバーに配布し、ChatGPTを実際に使用し、活用シートに記入

1.3. 調査研究会の内容

- 第1回研究会 基本的事項の共有。調査研究の進め方。
- 第2回研究会 ワークショップ「課題解決のためのChatGPTの利用」
- 第3回研究会 ChatGPTを活用したハッカソンを開催
- 第4回研究会 「自治体におけるChatGP活用ガイド」骨子の説明
- 第5回研究会 「自治体におけるChatGPT等の生成AI活用ガイド」レビュー



「自治体におけるChatGPT等の生成AI活用ガイド」(事例・資料編)

別冊 「戸田市の教育における生成AIの利用に関するガイドライン」

戸田市の教育においては、生成AIの利用という「手段」が「目的」化することなく、学校における働き方改革や子供達の学びの充実につながるよう、学校現場の「腹落ち」を図りつつ、着実に取組を進めていきたいと考えています。

戸田市の教育における生成AIの利用に関するガイドライン

【参考資料1】 夏季休業中の課題に対する利用について

【参考資料2】 生成AIガイドラインについて(保護者宛)

【参考資料3・4】 校務・学習利用アイデア

戸田市の教育における生成AIの利用に関するガイドライン

(令和5年9月)

夏季休業中の課題に対する児童生徒による生成AIの利用について

【前提として】
・教育活動の目的を達成する上で、生成AIの利用が効果的か否かで利用の適否を判断することが重要である。
・本市としては、生成AIの利用規約上の対象年齢を下回る児童生徒に直接的な利用をさせないこととしている。
・夏季休業期間などでは、児童生徒が家庭で保護者のアカウントを使って生成AIを二次利用することや、中学生が保護者の同意を得た上で自ら利用することも想定される。

■児童生徒による生成AIの利用に当たっては、以下のような適切ではない利用例も考えられる。
①各種コンクールの作品(法曹検定文・作文・詩・俳句、写真、絵等)やレポートなど児童生徒の個性や独創性において創作するものについて、生成AI等によって生成されたものを自己の成果物として応募・提出すること。
②知識・技能の定着を図る問題(ドリル等)や思考・判断・表現の過程に着目した課題(自由研究等)において、生成AIによって生成されたものを自己の成果物として提出すること。

■以下のような適切な利用例も考えられる。
①課題研究等の過程で、自らが作成したレポートの商業に足りない観点などを補完するために生成AIを活用する。その際、情報の真偽を確かめたり、AIとのやりとりの過程を参考資料として添付することや、引用・参考文献などを明示させることも一案である。
②自らの作った文章を生成AIで修正させたものを「たたき台」として、例題も自分で推敲し、よりよい自分らしい文章として仕上げた過程・結果を文書作成ソフトの校閲機能を使って提出させることも考えられる。

■夏季休業中の課題の意義について児童生徒に事前指導をする。
・児童生徒に課題を行う目的を十分に説明する。
・課題を通してどのような力が身につくか児童生徒とともに考える。等

※今後の学校教育における生成AIの利用全般に係る留意事項については、文科協のガイドラインを踏まえ、適って通知予定。

参考資料2

令和5年7月18日

戸田市立小・中学校 保護者 様

戸田市教育委員会
教育長 戸×× 勤

児童生徒による生成AIの利用について(お願い)

日ごろから本市の教育活動に御理解と御協力を賜り、感謝申し上げます。
さて、新聞・雑誌等でも話題になっている生成AIの利用について、文部科学省からガイドラインが示されましたので、保護者の皆様にも情報提供をいたします。
本市では、これまで基礎学力の定着はもたらんこと、「AIでは代替できない能力」や「AIを活用できる能力」の育成も目指しており、児童生徒が社会で生き抜く力を育む取組を推進しております。
生成AIの活用につきましては、有用な活用の可能性が大いにある一方、現時点においてはその適切な活用場面の検証が不十分であり、利用に際しては一定の注意を払う必要があります。
これから夏季休業に入り、御家庭の御判断で利用する場面も考えられますことから、この度の文部科学省の通知に基づき、下記のとおり御留意いただくとともに、夏季休業中の宿題の意味などを改めてお子様と話し合う機会としていただきますようお願い申し上げます。

記

1 文部科学省「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」の作成について(通知)
URL: https://www.wext.go.jp/contents/20230704-wet_shuukyoo02-000003279_003.pdf

2 戸田市の学校教育活動における活用の方針(夏季休業前)
・市が採用しているGoogleアカウントに紐づく「Google Bard」を試験的に利用
※Google Bardは利用規約上、18歳以上を対象のため児童生徒は利用しない。教師が生成AIの仕組みやどのように学びに生かしていくかという視点の授業等で利用。

3 夏季休業中の課題に対する児童生徒による生成AIの利用について
(1) 前提として
・活動の目的を達成する上で、生成AIの利用が効果的か否かで利用の適否を判断することが重要である。
・家庭で児童生徒が保護者のIDを使って生成AIを利用することや、中学生が保護者の同意を得た上で自ら利用することも想定される。

参考資料3

「Bard」による校務利用でのプロンプト例

※あくまでも例であり、他の利用例を否定するものではない。
※ブレインストーミングの趣旨で掲載しているものであり、内容については今後更に精査を要する。

参考資料4

生成AIを利用した授業等デザイン例

※あくまでも例であり、他の利用例を否定するものではない。
※ブレインストーミングの趣旨で掲載しているものであり、内容については今後更に精査を要する。